

未来創造志塾 6期第11回 (H20.1.15)

「君主論」悪徳の帝王学に学ぶ 非常の論理、悪の人心掌握術

未来創造志塾 建塾の志

目的

二十一世紀、新しい時代の大転換期を生き抜くための理念や経営の哲学を共に学び合う
経世済民の高い志を持ち、日本人としての使命を探究し、切磋琢磨し合い、未来に向けての価値を
創造し、共感の和を広げる。

誓い

一、大局観察

何事も高所、大局から、情勢判断する習慣を心掛けます。

一、使命探究

人間の持つ無限の可能性を信じ、自らの使命を探求し、価値の創造に努めます。

一、自己挑戦

常に智恵と向上心と勇気を忘れず、共に励ましあい、立派な日本人となることを目指します。

6期テーマ 東洋思想・哲学を学び、トップ幹部に必須な人間学を身に付ける！

賢者は歴史に学び、愚者は体験に学ぶ、先賢に学んで自分を練る」

講義主題 一、東洋思想を学び、価値観を高め、人間力の向上を目指す。

二、経営の原理原則を学び、戦略の仕掛けと仕組みを学ぶ。

三、お互いに価値観を語り合うことにより、志・使命を学び合う場とする。

第6期は、東洋哲学 歴史から、現代の経営に置換え学びます。

第6期予定	日程	テーマ
第1回	3月19日(月)	「山本勘助と武田信玄」に学ぶ、トップと参謀の条件
第2回	4月16日(月)	「武田家の事業継承」に学ぶ、成功例と失敗例
第3回	5月21日(月)	「真田一族(三代)」に学ぶ、中小企業経営の生残り戦略
第4回	6月18日(月)	「織田信長の破壊と創造」根底は生まれつきの帝王学
第5回	7月9日(月)	「徳川吉宗の目指した改革」人材登用の極意
第6回	8月13日(月)	「小栗忠順」明治維新の未来を創った天才戦略家
第7回	9月11日(火)	「山田方谷と河合継之助」名宰相の生き方の違い
第8回	10月16日(火)	「クラウゼビッツ戦争論」戦略思考を身に付ける
第9回	11月13日(火)	「クラウゼビッツ戦争論」強い(将帥)リーダーの条件!
第10回	12月11日(火)	「ランチェスター弱者の法則」中小企業の経営戦略の極意
第11回	1月15日(火)	「君主論」非常の論理、悪の人心掌握術
最終回	2月19日(火)	「曹操孫子注釈」戦略・戦術策定の仕組みを学ぶ!

以上で予定しておりますが、皆様の希望あれば、内容を変えます。

場所 : 地下鉄東陽町駅前 産業会館(第1会議室)

会費 : 3000円(会員以外 都度参加メンバー)

(6期会員メンバーは、2000円、録音CD送付)

未来創造志塾 6期 1 1回 (H20年 1月 15日)

「君主論」悪徳の帝王学に学ぶ 非常の論理、悪の人心掌握術

「マキアベリ君主論」・・・統一と秩序をもたらす 究極の権謀策術「乱世」君主のあるべき姿」

マキアベリ・・・イタリア、フィレンツェ共和国の官僚書記官 (1469～)
1559 年ローマ法王庁・・・「人の道に背く悪徳の書」禁書処分 = 人道主義 (ヒューマニズム)

マキアベリによれば、「君主という存在は、たとえ人の道に反することをして、秩序ある平和をもたらすようになるなら、人格を非難されない」・・・という。

例) 戦争は国家的な殺人

非常の論理・・・「君主は、人民の親を殺しても、人民の財産に手を出してはならない」
～～人間は、父親の死はじきに忘れてしまっても、自分の財産の喪失は忘れ難いものだから、とくに他人の持物に手を出してはいけない。～～

「人間は、肉親への愛よりは、金への執着」

リーダーシップとは？

有情 無情・・・非情 (常)

力こそ君主の最大の美德 本日の結論

「君主論」は、政治の道理が、人間個人の道徳、道理とは別次元の力学にもとづく道理であることを発見
人間個人 : 優しさは徳、弱さも罪にはならない
君主の場合 : 優しさは徳にはならず、弱さは罪悪になる・・・最大の徳とは力である！
= = = 能力ある者こそ君主の位置につくべきだ！能力こそ支配者の唯一の道徳である！

人間というものは、その本性から、恩恵を受けても、恩恵をほどこしても、やはり恩義を感じるものである。
運命共同体

運命は女神だから、彼女を征服しようとするれば、打ちのめし、突き飛ばす必要がある。運命は、冷静な生き方をする人より、こんな人の言いなりになってくれる。

果敢な行動を提唱

リーダーの座についたと同時に、手早く基礎工事を完了することだ。

地位を確固たるものに早急にする

金で買われた人間は、ささいなきっかけで簡単に変心する。

傭兵部隊 (報酬と地位)

自由の味をしめた人民は弾圧するしかない。

一度自由の味をしめたら、絶対に支配を受け入れない

リーダーは積極的に支配地におもむく

新統治者は、支配地の(企業)文化・風習を犯さないこと…**従業員は新しい秩序を恐れる!**
例) 瀨朝・信長・家康、ゴーン

マキアベリは、あらゆる障害を乗り越える究極の統治法を提唱する。

もっとも効果的な対策の一つは、征服者が現地におもむいて移り住むことである。

オスマントルコ 信長

4つの理由

不穏な空気はすぐに察知できる。速やかに善後策を立てられる

地方長官が私腹を肥やす、領土を横取りされる心配もない

領民がいつでも君主に不満や窮状を訴えられる。謀反を起こしにくい

国に混乱の要素がなくなり、外国の侵略する隙がなくなる

ガラス張り(透明)の経営、ワンフロア、重役室オープン、垣根なし

恩賞は「小出し」に与える!

恩賞は、よりよく人に味わってもらおうように、小出しにやらなくてはいけない。

人間心理の洞察: 度々過分の報酬を与えられると、それが当たり前と思うようになる

二度目に同じ額をあたえても、ありがたく思わない。少ないと不満を覚える、怒りから背く

記憶というものは、長続きしないだけでなく、前例を作ることになる!

例) 光秀(良)、秀吉(悪)

自分の金や領民の物を使う時…出し惜しみ

他人の物や戦利品を使う時…大盤振る舞い

幹部(秘書官・側近)には過分の地位と報酬を与えよ!

幹部は、君主と運命を共にする立場にある。(興亡を共にする宿命)

国を強くするための悪評は進んで受ける

同情心がありすぎて、小を殺して大を生かすことのできない将は、心を鬼にしての決断を下すことができない。孫子の兵法

同情(個人では美德)…非情(君主では悪徳)

君子は和して同せず、小人は同して和せず」論語

君主(管理者)は愛されるよりも恐れられるほうが、はるかに安全である

人間は、恐れている人より、愛情をかけてくれる人を、容赦なく傷つけるものである。

恩義より利害、義務より処刑(罪)に対する恐怖からは逃れられない(人間は利己的)

愛情は寛容であって欲しいと期待する…過ちも含めて…受け容れなければならない!

人は愛することは自由意志で行うが、恐れるのは君主の意思によるとい事実

恐れられる君主は安泰となり、恨まれる君主は滅びる(恐怖と憎悪は別)

恨みを買わないことと、恐れられることは両立しうる。これは、為政者が、自分の市民や領民の財産、彼らの婦女子にさえ手をつけなければ、かならずできるのである

賢明なリーダーは恐れられても恨まれない！ ..信賞必罰 公平

不当な処罰 = 憎悪 ..報復の機会をうかがう

従業員に厳しい懲罰よりも、首にするほうが賢明

例)星野監督、

冷酷な粛清は一気呵成におこなう!

小出しするな! 時間をかけるな! 一度のみ徹底的に! 冷酷非情 果断に

リーダーはケチと呼ばれても気にしない

鷹揚「気前の良さ」という評判を得れば、その評判を維持するためには……? 例)秀吉、
止めた瞬間、ケチという印象が際立つ! 反対にケチな人がちょっとした褒美を出すだけで意外に!
気前よさの危険

吝嗇家というのは人から好かれはしないかもしれないが、尊敬は受け、又パワーも保持する。

例)黒田孝高の払い下げ

「人はただでもらった物よりも、金を払って得た物のほうを大事にするものだ。日頃からただで物をもらっ
ていては、いざ恩賞をもらうときのありがたみが薄れてしまうのではないか」

慎重に行動するよりは果断に行動する

全面的に運命に依存してしまう君主は、運命が変われば滅びるということ。

又、時勢と共に、自分のやり方を一致させた人は成功し、逆に、時代と自分の行き方がかみ合わない者は不幸になるということ、そこにある。

自分の幸運は自分でつくるもの! 幸運は才能によって維持される!

脆弱な国家は常に優柔不断であり 意志決定の遅れは常に有害である!

人は慎重であるよりは、むしろ果断に進むほうがよい。

リーダーは常に決断と行動を求められる(熟慮断行)

君主は、悪に踏み込んでいくことも心得ておかなければいけない。

信長比叡山

君主はよい気質を、何から何まで現実に備えている必要はない。しかし、**備えているように見せることが大切である。**いや大胆にこう言ってしまう。こうした立派な気質を備えていて、後生大事に守っていくというのは有害だ。備えているように思わせること、それが有益なのだ、と。例えば慈悲深いとか、信義に厚いとか、人情味があるとか、表裏がないとか、敬虔だとか、そう思わせなければならない。又現実にそうする必要はあるとしても、もしもこうした態度が要らなくなった時には、まったく逆の気質に変わりうる、ないしは変わる術を心得ている、その心構えがなくてははいけない。

悪に踏み込む気構え、本性を見せるな、悪の中の善

賢明な君主は、第三者の力で勝つぐらいなら、独力で負けることを願った。

中立ほど危険な策はない (旗幟を鮮明にすること!)

当面の危機を回避するための決断の放棄だと断じている!

日本人は、全員一致を重んじるが、ユダヤ人はむしろ全員一致を警戒する」

君主は恩恵を与える役はすすんで引き受け、憎まれ役は、側近 (幹部) に請け負わせればいい。
重用した幹部には全幅の信頼を置く

マキアベリによれば、人間の頭脳にはおよそ3つの種類

1. 独力で考えをめぐらし、計画を立てることができる頭脳
2. 他人の考えたことの良し悪しを正確に判断できる頭脳
3. 自分でも考えず、他人にも考えさせない頭脳

側近が有能で誠実であれば、その君主は聡明だと評価してまちがいない。それは、君主が彼らの実力を見抜ける人であり、彼らに忠誠を守らせているからである。

君主は2の頭脳を持っていれば名君といえる

君主 (経営者) がその地位を守るために、しなければならないこと

1つは行動・・・部下の教育訓練 領国の観察 情報収集

2つは頭の訓練・・・歴史を読み卓越した人物の行動を研究 (勝敗の原因 理由)

マキアベリ思想の鍵

伝記的歴史を学び、事物の本質を知れ! 偉人のやり方 哲学を研究!

追従者を選けるため、耳を貸すに値する幹部を厳選する

君主は、国内から幾人かの賢人を選び出して、彼らにだけあなたに自由に真実を話すことを許す。しかも君主の下問の事からかぎって、ほかの論議を認めないことにする。

有能な御意見番を設けつつ、最終的な意思決定者としての絶対的な權威を守る

例) 信玄の特別顧問「弓矢の御談合七人衆」・・・すべては信玄の決断

自分をだまそうと図る者を徹底排除する、直言する者を厳選する

賢人のみに自分に真実を告げる完全な自由を与え、その場合も聞こうと思うもののみについて彼らが語るのを許すようにすることである (助言が多いと問題、それぞれ利害がある)・・・意見は引き出す!

賢明な助言は必ず君主の賢明さから生まれるものであり 与えられた優れた助言から君主の賢明さがもたらせるのではない! (結論)

信義を守る必要がなくなる時

人間は邪悪なもので、あなたへの約束を忠実に守るものでもないから、あなたのほうも、他人に信義を守る必要はない。それに約束の不履行についても、もっともらしくいつくろう口実など、その気になれば君主はいつでも探せる

得策でない信義は守れない! (それには、約束を守らせるには力が必要)

強制力のない約束はあてにするのは賢明ではない!